

ロボット人材育成に注力 全国大会は不参加に

大館



小中学生にロボットプログラミングを体験する機会を提供する「おわたてロボット人材育成コンソーシアム」(中田直文会長)は19日、大館商工会議所で総会を開いた。本年度は、例年東北予選の優勝者らが出場していた全国規模の大会「WRO Japan」への参加を取りやめ、設立主旨に立ち返り、子どもたちの科学技術への関心や人間力を育て、ものづくり人材の育成に注力する方針を固めた。

市教委、商議所、秋田職能短大などから17人が出席。全国大会には、2013年度に発足した前身の実行委時代から毎年出場。参加児童生徒が初級者向けの部門などで優勝したこともあった。一方で近年は入賞を逃すことが続いている。事務局の職能短大は

17人が出席した総会(大館商議所)
「初級者部門がなくなったほか、世界大会につながるエキスポパート部門は課題が難しすぎる。2、3回のロボット教室参加では大刀打ちできない」と不参加が提案された。
委員からは「子どもの関心を広く、厚くする基本路線に立ち返ろう」という声も多かった。一方、「子どもがモチベーションに不安が残る」という声も。代替案として「大館杯」の開催や内容の拡充、「独自の展開で『大館モデル』の実現を」となど求める意見が出された。

本年度は今日20日、7月20日、9月7日に職能短大でロボット教室を開催。最終回は競技会を兼ねる。